

沖縄県内の生産現場では県外の労働力確保（外国人材含む）を進めてきたが、観光業や飲食業などあらゆる産業でも労働力が不足し、産地の労働力不足は深刻化している。他産業に負けないように労働力を確保し産地を維持、生産力を向上していくためには、新たな労働力確保策が必要である。そこで、日本の人口集積地である首都圏をメインターゲットに、各産地で活躍する労働者やシーズナリティーのある産業で働いている労働者に対して、チラシやSNS等を通じた求人情報の発信などによる募集活動を行い、首都圏を軸とした産地間の労働者の移動、連携が行えるモデルを示すことにより新たな労働者を創出する仕組みを構築する。

事業実施主体構成員

沖縄県花卉園芸農業協同組合

協力機関・連携先等

株式会社農協観光（委託）、太陽の花青年部、葉物部会、大菊部会
太陽の花スプレーマム部会

設定した成果目標・目標に対する進捗状況

①産地の労働力需要に対する充足率：

▼設定した成果目標

・事業開始：（取組み農家5件 募集者50人）⇒目標充足率7.6%

▼R7.2末現在の進捗状況※概算

求人希望農家数：9件→取組農家数：6件
募集者数13名→採用数：10名（応募64名）
充足率 77%

令和6年度取組み内容

今年度の取組み内容
ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等） ・実施時期：令和6年11月～令和7年2月 ・調査手法は、パソコン・スマートフォンなどで回答できるWEBアンケート形式と専用用紙による記述式を併用 【実績】 ・アンケート結果と考察 受け入れて良かった面として 「人手の見込みが立ったことにより、作業の予定が組みやすくなった」「繁忙期に人が入ってくれる」 受け入れて苦労した点として 「女性参加者だったため、気を遣う場面が多かった」「農作業を教えるから出来るまでの時間がかかる」 なお、菊の繁忙時期が3月であることから3月に利用できる制度を求める声も多数あったほか、今年は雨量が多く菊の生産が思うように進まず、人手が例年よりも必要にならなかったという意見もあった。
イ 産地内での労働力確保・育成

今年度の取組み内容	
ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保 / エ 労働力等のマッチング及びデータベース化	
WE Bサービスの活用により求職者、求人農家の双方のやり取りを簡略化すると共に、求職者の情報をデータベース化することで、産地間で活躍する労働者に対して継続的な求人情報の発信等を行い、産地とのマッチングを図る。 ア.WE Bサービスを活用した履歴書等のやり取り イ.履歴情報のデータベース化により、履歴情報再入力等の手間を軽減 ウ.データベースを活用した求人情報の発信によるマッチングの促進 エ.オンラインによる面談・採用の実施 求人希望農家数：9件→ 取組農家数：6件 募集者数64名→採用数：10名	
オ 農業の「働き方改革」への取組	
農業の「働き方改革」に係るセミナー開催 ＜セミナープログラム＞ 1. 働き方改革とは？なぜ働き方改革が求められるのか 2. 一般企業と農業における労務管理の違い 3. 多様な人材に活躍してもらうための働き方の見直し 4. 雇用主としてのマナー「労災保険」 セミナーを通じて、参加者からは経営継続のために雇用が必要であり、そのために労務管理（働き方改革）が必要であることを認識いただけた。特に労災保険の加入の必要性については理解が深まったと言える。	

本事業取組みにおける成果項目

- ・本事業で首都圏より雇用確保を目的に、委託先である農協観光の沖縄農業ツアーを活用して参加者を募集して取り組んだ。
- ・農業の「働き方改革」への取組として、労働環境改善、労務管理、人材募集、農作業安全対策等に係る専門家の助言を受けるセミナーを開催した。セミナーを通じて、参加者からは経営継続のために雇用が必要であり、そのために労務管理（働き方改革）が必要であることを認識いただけた。特に労災保険の加入の必要性については理解が深まったと言える。

次年度以降の取組み内容

- ・引き続き首都圏や各産地で活躍する労働者の人材確保を農協観光と協力して継続していく。
- ・地域の労働力状況の把握
日本人・外国人労働者の実態把握